テオの「ありがとう」ノート

ル・グイック＝プリエト作　坂田雪子訳　ＰＨＰ研究所

ぼくはテオ、十二歳。生まれつき両足と左手が不自由で、十年間も車いすで過ごしている。ぼくはいつでもお願いしてばかり。車いすに乗るにも、着がえをするにも、誰かの助けが必要だからだ。でも、そのたびに「ありがとう」を言うのには、もううんざり。そこで、ぼくは「ありがとう」を言うのをやめることにした。

でもそれは、いざやるとなったら、なかなかむずかしかったんだ。

「ありがとう」という言葉をきっかけにして、自分の障がいと向きあい、成長していく男の子の物語。